

016

災害時における医療的ケア児の
電源確保と車両活用による支援体制の構築

#地方創生 #インクルーシブ防災

取組主体

特定非営利活動法人
輝くママ支援ネットワークぱらママ

従業員数	想定災害	実施地域
3人	全般	岡山県

災害時における医療的ケア児の家族の電源確保を目的として、必要な情報を管理する独自システムの開発に加え、キャンピングカーを活用した避難訓練マニュアルの作成や訓練の実施等を行っている。

1 取組の概要

- 特定非営利活動法人輝くママ支援ネットワークぱらママ（以降、ぱらママと表記）は、子育て中の女性に関する支援を行っている団体である。ワーク・ライフ・バランス推進、多様な働き方の創出、出張託児事業、育児支援、女性の健康支援等、様々な事業を展開している。本事例では、医療的ケア児（日常生活や学校生活を送るために、継続的な医療的ケアを必要とする子どものこと）の支援を中心とする防災活動について取り上げる。
- ぱらママでは、医療的ケア児家族の避難支援として、以下の4つの活動を行っている。
 - 医療的ケア児自己紹介カード「イツミー！」の開発：医療的ケア児に必要な医療情報や、災害時に必要な物品、避難計画を当事者が整理・管理するために独自に開発したシステム。自治体とのデータ連携は行っておらず、利用者の許可に基づき、避難時や緊急時に避難支援者に情報公開を行う仕組みとしている。
 - 医療的ケア児支援ネットワークの運営：医療的ケア児をもつ家庭同士のつながりを構築するために、茶話会やワークショップ等のイベント運営。
 - キャンピングカーや自家用車を活用した避難支援：キャンピングカーを災害時に一時避難場所として活用するため、キャンピングカーの装備や過ごし方を体験する防災キャンプを実施。また、車中泊避難が可能な場所の情報提供を行っている。
 - 避難訓練支援：町内会と連携し、地域における共助・互助の橋渡しを行っている。



イツミー！のログイン画面



キャンピングカーの外観



避難訓練の様子

《取組の検討・実施体制》

- 株式会社エール、株式会社コネクシー、キャンピングカー株式会社、岡山大学、医療法人つばさクリニックと連携して実証実験を行った。
- これまで、公益財団法人日本財団、公益財団法人橋本財団、公益財団法人キリン福祉財団、特定非営利活動法人モバイル・コミュニケーション・ファンドの助成を受けた。

2 取組が始まった経緯・背景

- 平成30年7月豪雨の際、岡山市長からボランティアの方々が休憩する場所を確保したいとの要望があり、キャンピングカーを貸し出したことがきっかけだった。
- その後、訪問看護ステーションを運営する方から、医療的ケア児の避難支援に関する協力提案を受けた。医療的ケア児は、多くが在宅療養をしており、災害時には電源確保が大きな課題であった。

- キャンピングカーは3日程度の電源供給が可能であることから、キャンピングカーが避難場所として活用できることを認識し、医療的ケア児の家族が災害時にキャンピングカーを活用し避難支援者と連携するための取組に着手した。
- 医療的ケア児が使用する人工呼吸器等の医療機器は、機器ごとに出力（ワット数）、電圧方式（正弦波の有無）、連続使用可能時間等が異なるため、災害時にキャンピングカーを活用する場合には個別の仕様確認が必要となる。「イツミー！」には、医療機器の種類や必要電源情報を登録できる機能を設けている。

3 取組による効果・成果

- 訪問看護ステーションと連携し、医療的ケア児を対象とした避難訓練マニュアルを作成した。チェック項目を整理した全50ページ程度の内容で、項目を選択することで医療的ケアが不要な障がい者や高齢者等、避難行動要支援者も活用できる構成としている。
- 2023年度に、第8回おかやま協働のまちづくり賞に入賞した。同賞は「岡山市協働のまちづくり条例」に基づき、地域の社会課題を解決する、優れた協働の取組を表彰する賞である。2023年度はSDGs10、11から「災害に強いまちづくり～誰も取り残されないやさしい地域を目指して～」をテーマにエントリーが行われていた。

4 周囲の声

- 町内会と連携した避難訓練を通じて、医療的ケア児に関する地域の連携を向上させることができた。医療的ケア児が自身の町内に住んでいたと初めて知った、または知ってはいたがどのようにサポートをすればいいかわからなかったものの、訓練を通じて知り合い、普段から声掛けができるようになったとの感想があった。

5 直面した課題と対応

- 取組を継続するために、ビジネス化を進めることが課題である。現在は採算面を考慮しレンタル事業を停止しており、団体として車両は保有していない。一方で、災害時の車両確保については、個人のキャンピングカー保有者やレンタル事業者とのネットワークを通じて対応することを想定している。また、キャンピングカーの保有に依存しない避難支援の仕組みとして、「イツミー！」の普及、医療的ケア児を対象とした避難訓練マニュアルの普及、車中泊避難に関する情報提供等を進めている。

6 今後の展望

- 「イツミー！」を普及させ、医療的ケア児にはどのような支援が必要なのか、事前に共有できる仕組みを広げていきたい。一口にキャンピングカーと言っても、どの程度の電力が供給できるのか、水や電化製品等、様々な仕様がある。事前の確認無しに避難ができるわけではない。行政への情報共有も可能にし、共助が可能な世の中にしていきたい。

担当者の声

社会的弱者を取り残さずに救うためには、日ごろから地域のつながりを構築することが大切だと感じている。社会的弱者の場合、避難所にたどり着く前に亡くなってしまうこともある。社会的弱者を巻き込んだ避難訓練を実施するなど、共助の体制を構築していくことに貢献していきたい。

問合せ先	動画	サイト URL
特定非営利活動法人 輝くママ支援ネットワークぱらママ 事務局 法人番号：9260005009119 Tel：086-206-6622	—	

《本事例のポイント》

ぱらママは、キャンピングカーを医療的ケア児の家族の避難場所として活用する取組を進めている。防災キャンプや避難訓練の実施、情報共有システムの開発等を通じて、医療的ケア児の家族の避難支援体制の構築を図っている。フェーズフリーとインクルーシブ防災の両面に意義がある取組である。